

2025 年 6月28日

予選審査に関する簡単なコメント

第 36 回高専プロコン（松江大会）

審査委員長 大場 みち子

奈良大会に続く 4 年連続の現地開催となった今回は、参加校こそやや減少したものの、応募総数は 課題部門 40 件・自由部門 66 件・競技部門 54 件 と過去最多となり、コロナ禍以前の熱気が完全に戻ったことを実感しました。短期間でアイデアを絞り込み、具体的な実装方法を練り上げ、魅力的な提案として仕上げてくださった学生の皆さん、そして日頃から支えてくださる指導教員・関係者の皆さまに心より敬意を表します。

課題部門では、テーマ「ICT を活用した環境問題の解決」が 2 年目に入り、課題設定の掘りやデータ活用の巧みさが一段と進みました。説明資料も視覚的に洗練され、読みやすさが向上した点は評価できます。一方で、環境問題との因果関係や解決プロセスが十分に示されていない提案も散見されました。到達目標や評価指標を数値で示すことで、提案の説得力はさらに高まるでしょう。

自由部門は、定番分野に加えて挑戦的な作品が集まり、ボーダーライン上での激戦となったことが印象的です。ただし「独創性」は「実現不可能」と同義ではありません。生成 AI 活用など意欲的なテーマこそ、実装・検証方法を具体的に示し、利用シーンやユーザーのペルソナを明確にすることで「使ってみたい!」と感じさせる提案に仕上げてください。

競技部門では、ほぼ全チームがアルゴリズムの核心や改良ポイントを平易に記述し、問題解決へのアプローチが分かりやすく示されていました。一方、記述が不足しているチームには条件付き通過を適用しました。提出締切に間に合わせられず不通過となったチームもありました。予選段階から余裕を持ったスケジュール管理を徹底し、本選で存分に力を発揮していただきたいと思います。

松江は“水の都”。10 月の本選では、みなさんのアイデアが水面に反射してさらに輝く姿を楽しみにしています。**独創性・有用性・情熱**の 3 点を、プレゼンとデモで存分にアピールしてください。

最後に、予選を通過した作品にはさらなる磨きを、惜しくも通過を逃した作品には今回の学びを次の挑戦へ。高専生らしい自由闊達な発想と確かな技術力に、審査委員一同、大きな期待を寄せています。

以上